

元気あふれるモノづくりのまち 富士を目指して

工業都市として発展してきた富士市。
今、人口減少社会の到来や国際経済の影響によって、
製造業などモノづくりを取り巻く環境は大きく変化
しています。

市民が生き生きと暮らせるまちを実現するには、モ
ノづくりの技術や大切さを次代に伝えながら、企業
が元気に活動できるまちづくりを進めていく必要が
あります。

今回は、モノづくりのまちを目指す、富士市の工業
振興についての取り組みをご紹介します。



富士市はどのようなまちなのか？

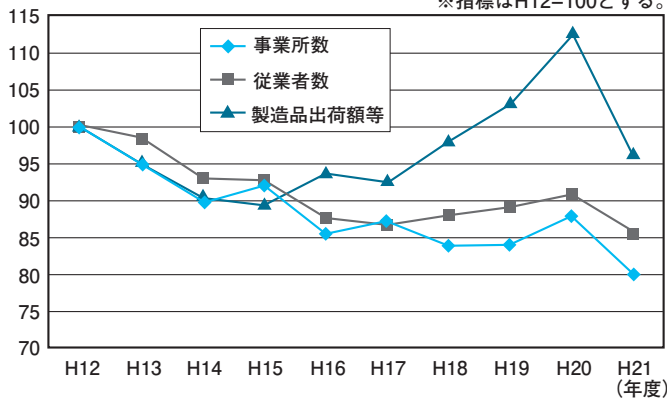
富士市の工業事情

過去10年間の動向

富士市は豊富な地下水や豊かな自然に恵まれ、東京・名古屋といった大都市圏の中間点に位置します。こうした立地条件を背景に、市内の紙産業は国内最大規模にまで成長しました。また、市外から大手企業が進出するなど、輸送用機械・化学工業・電気機器といったさまざまな産業が集積し、県内でも有数の活気ある工業都市として

富士市の工業の主要指標の推移

※指標はH12=100とする。



県内の製造品出荷額等の市別順位

単位：円, (%)

年	H17	H18	H19	H20	H21
県全体	17兆3,227億	18兆2,346億	19兆4,102億	19兆1,777億	15兆509億
1位	浜松市 2兆7,533億 (15.9)	浜松市 2兆8,499億 (15.6)	浜松市 3兆2,256億 (16.6)	浜松市 2兆8,693億 (15.0)	浜松市 2兆981億 (13.9)
2位	磐田市 2兆679億 (11.9)	磐田市 2兆4,792億 (13.6)	磐田市 2兆4,681億 (12.7)	磐田市 2兆3,398億 (12.2)	磐田市 1兆6,211億 (10.8)
3位	静岡市 1兆6,222億 (9.4)	静岡市 1兆6,443億 (9.0)	静岡市 1兆7,595億 (9.1)	静岡市 1兆8,451億 (9.6)	静岡市 1兆5,426億 (10.2)
4位	掛川市 1兆4,469億 (8.3)	湖西市 1兆4,642億 (8.0)	湖西市 1兆6,685億 (8.6)	湖西市 1兆7,607億 (9.2)	湖西市 1兆4,077億 (9.4)
5位	湖西市 1兆3,305億 (7.6)	掛川市 1兆4,502億 (8.0)	掛川市 1兆5,257億 (7.9)	掛川市 1兆6,112億 (8.4)	富士市 1兆3,513億 (9.0)
6位	富士市 1兆3,019億 (7.5)	富士市 1兆3,768億 (7.6)	富士市 1兆4,487億 (7.5)	富士市 1兆5,839億 (8.3)	掛川市 1兆2,481億 (8.3)

資料：工業統計調査（平成19年以前の数値に旧富士川町分は含まない）
※従業員4人以上の事業所の数値。※カッコ内は県内における割合。

富士市の工業の再生は

工業の振興は不可欠

紙産業を中心に工業都市として発展してきた富士市。市民が生き生きと豊かな生活を送り、明るいまちづくりを進めるためには産業の振興は不可欠であり、「地域力」を高めるためにも重要な要素です。

長引く厳しい経済環境の中で平成10年以降、製造品出荷額の減少傾向が続く富士市は、活発な産業経済活動を推進するため、平成18年3月に「富士市工業振興ビジョン」を策定しました。

富士市工業振興ビジョン

このビジョンでは、これまでに中小企業振興基本条例の制定や富士市産業支援センターの設置などをはじめ、地場産業の振興や金融支援、企業誘致・留置を推進してきました。

ことしの3月には、これまでの5年間の事業効果などを踏まえた後期事業計画を策定し、人材の育成や工業製品・技術の高付加価値化などを図るため、さまざまな工業振興事業を実施し、これからのモノづくり企業を応援します。

再び「モノづくり」に元気を

富士市の「モノづくり」は世界に通用します

富士市工業振興会議委員長
知隆 富士常葉大学
総合経営学部長



富士市は伝統的に製紙業の比重が高いため、近年の不況の中でも、内需の支えによって製造品出荷額の落ち込みが他市に比べ低い割合にとどまっています。

富士市の「モノづくり」の強みは、何と言っても製紙業を中心に長年培われてきた高度な「技能」や「技術」です。経済のグローバル化や長引く不況の中だからこそ、世界に通用する富士市の「モノづくり」の技能や技術が、富士市の工業再生の力ギになると確信しています。